

第15回 JACI/GSCシンポジウム 概要

日時	2026年6月16日(火)～17(水)
開催場所	一橋大学 一橋講堂 (一部ライブ配信有) [東京都千代田区一ツ橋2-1-2]
主催	(公社) 新化学技術推進協会
参加予定者数	800名
後援省庁	経済産業省、文部科学省、環境省
テーマ	Chemistry for the Next Generation ～まだ答えのない問いへの飽くなき挑戦～

公益社団法人新化学技術推進協会は、持続可能な発展のためGSCを基盤とした化学技術イノベーションの推進を目的として、JACI/GSCシンポジウムを毎年開催しています。

気候変動、資源制約、急速なデジタル化の進展といった人類規模の課題に立ち向かう次世代の化学は、既存の枠組みにとらわれることなく、未解決の問いに果敢に挑む姿勢から生まれると私たちは考えます。環境・社会・技術が複雑に絡み合う現代において、化学の関わる領域は、持続可能な社会の構築、情報技術との融合、医療の革新など、かつてない広がりを見せているからです。今こそ果たすべき役割を再考し、未来に向けた新たな価値創造に取り組む時です。

第15回のJACI/GSCシンポジウムでは、“Chemistry for the Next Generation”というテーマの下、カーボンニュートラルなどの目標達成およびその先の未来に向けて、化学が社会にどのように貢献できるのか、そしてどのような課題に挑むべきかを、多様な視点から考察します。特に、答えのない問いはもとより、その課題の輪郭を認識することそのものに対して、柔軟な発想と学際的なアプローチで向き合うことの重要性を共有し、今を生きる私たちが新たな挑戦に踏み出す契機となることを目指します。

本シンポジウムを通じて、参加者一人ひとりが、知の境界を越え、未来の化学の姿に思いを馳せ、挑戦への決意を新たにすることを願っています。皆様のご参加をお待ちしております。





プログラム1日目 [6月16日(火)]

時間	項目	演題 / 講演者(敬称略) / 講演内容
9:30~		受付開始
10:00~	開会挨拶	森川 宏平 [(公社)新化学技術推進協会 会長]
10:15~	基調講演 (S-01)	“設計できる空間”が産業を変える —MOFによる気体制御技術の可能性— 北川 進 [京都大学 理事/副学長/特別教授] 多孔性金属錯体(MOF)は、この25年以上にわたり、気体の貯蔵や分離、触媒、センシングなどの分野で、次々と注目すべき成果を生み出してきた。近年では研究対象は気体にとどまらず、液体にも広がっている。MOF化学は、環境、資源、エネルギー、健康といった人類共通の課題解決に貢献する革新的な分野として、ますます発展を続けている。
11:10~	招待講演 (S-02)	化学プロセスの電化を目指した気相電解合成と電極触媒の開拓 山中 一郎 [東京科学大学物質理工学院 教授] カーボンニュートラルを成し遂げるために、再生可能エネルギー由来の安価な電力を用いた化学プロセスの電化が注目されている。電化のための重要な化学技術である気相電解合成とそれを駆動する電極触媒の開拓について講演する。
11:55~	ポスターパレード① (企業団体ブース出展社 ショートプレゼン)	
12:10~	休憩	
13:10~	基調講演 (S-03)	科学者の社会的責任～次世代の化学のために 藤垣 裕子 [東京大学大学院総合文化研究科 教授/理事/副学長] 科学者の社会的責任と聞いて、皆さんは何を思い浮かべるだろうか。本講演では、Chemistry for Next Generationを考えるうえで参考となるRRI(Responsible Research and Innovation)概念をもとにこの課題について考えてみる。
14:05~	招待講演 (S-04)	精密重合技術の開発と持続可能高分子材料への展開 上垣外 正己 [名古屋大学大学院工学研究科 教授] 高分子の性質は化学構造に依存するため、その構造制御は材料開発に重要である。本講演では、高分子の構造制御を可能にする精密重合技術の開発と、それを用いたバイオベースポリマーや分解性ポリマーなど持続可能な高分子材料への展開を紹介する。
14:55~	招待講演 (S-05)	未踏炭素機能科学をめざして 伊丹 健一郎 [(国研)理化学研究所伊丹分子創造研究室 主任研究員] 私たちは構造的に均一なナノカーボン(分子ナノカーボン)の化学合成に成功し、「分子ナノカーボン科学」という新領域を開拓してきました。講演では、これまで合成した代表的な分子ナノカーボンを概説しつつ、分子ナノカーボン材料科学および分子ナノカーボンバイオロジーに向けた新たな挑戦についても紹介します。
15:45~	GSC賞受賞講演	
17:15~	GSC賞表彰式	



プログラム2日目 [6月17日(水)]

時間	項目	演題 / 講演者(敬称略) / 講演内容
9:15~		受付開始
9:30~	JACI 事業説明	片岡 正樹 [(公社)新化学技術推進協会 事業統括部長]
9:55~	基調講演 (S-06)	<p>素材・化学産業からユニコーンを産むために ~xRLによるシナリオ作り~</p> <p>木場 祥介 [ユニバーサル マテリアルズ インキュベーター(株) 代表取締役パートナー]</p> <p>The SIP Phase 3 Materials Project, led by Cabinet Office' s Council for Science, Technology and Innovation, explored how to consistently create unicorn ventures in the materials and chemical industries. Using the new xRL metric, which assesses readiness in technology, business, people, social needs, and governance, the project identified a scientific approach to building such ventures. This presentation highlights why unicorn creation in these industries matters and the key viewpoints required for startups and new corporate businesses, along with an overview of xRL.</p>
10:50~	招待講演 (S-07)	<p>多孔質高分子を利用した固定化触媒の開発</p> <p>三浦 佳子 [九州大学工学研究院 教授]</p> <p>固定化触媒は、固液分離の観点やフロープロセスなどの新しい化学プロセスに、重要である。固定化触媒の特性の一方で、多くの固定化触媒は構造が不明確で、活性点の精密な制御の困難さがある。高分子の精密な構造制御技術に基づいて、柔軟な設計性と多孔質材料の高比表面積・回収容易性を融合させた、高機能な固定化触媒とプロセスの開発を概説する。</p>
11:35~		ポスターパレード② (企業団体ブース出展社 ショートプレゼン)
12:05~		休憩
12:45~		EXHIBITION ポスター発表 (前半) 12:45~14:10 / (後半) 14:20~15:45
15:50~	基調講演 (S-08) [対談]	<p>AIは化学研究をどう変えるのか</p> <p>岡野原 大輔 [(株)Preferred Networks 代表取締役社長] 高桑 達哉 [住友電気工業(株) MI/PI推進グループ長]</p> <p>研究開発現場におけるAIシミュレーション活用の実際とその課題、今後の展望を対談形式で紹介する。さらに、AIが化学研究の加速を主導する時代における研究開発の未来像と、日本が果たすべき役割について議論する。</p>
16:45~		ポスター賞受賞者発表
17:10~	閉会挨拶	葛城 俊哉 [(公社)新化学技術推進協会 副会長]



会員・後援団体(予定)

※掲載:アイウエオ順

公益社団法人新化学技術推進協会 正会員 (2025年4月1日現在)

- | | | | |
|---|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・株式会社アイシン ・旭化成株式会社 ・株式会社旭リサーチセンター ・味の素株式会社 ・株式会社ADEKA ・出光興産株式会社 ・株式会社イノアックコーポレーション ・AGC株式会社 ・ENEOS株式会社 ・大阪ガスケミカル株式会社 ・花王株式会社 ・株式会社カネカ ・株式会社クラレ ・株式会社クレハ ・KHネオケム株式会社 ・コニカミノルタ株式会社 ・三洋化成工業株式会社 ・JSR株式会社 ・JNC株式会社 ・株式会社JSOL | <ul style="list-style-type: none"> ・株式会社島津製作所 ・シュレーディングー株式会社 ・信越化学工業株式会社 ・ケミカル&マテリアル株式会社 ・株式会社住化分析センター ・住友化学株式会社 ・住友精化株式会社 ・住友ベークライト株式会社 ・積水化学工業株式会社 ・セントラル硝子株式会社 ・ダイキン工業株式会社 ・株式会社ダイセル ・大日精化工業株式会社 ・大日本印刷株式会社 ・太陽日酸株式会社 ・ダッソー・システムズ株式会社 ・千代田化工建設株式会社 ・DIC株式会社 ・株式会社Transition State Technology ・帝人株式会社 | <ul style="list-style-type: none"> ・デンカ株式会社 ・株式会社デンソー ・東亜合成株式会社 ・東京応化工業株式会社 ・東ソー株式会社 ・東洋エンジニアリング株式会社 ・東洋紡株式会社 ・東レ株式会社 ・株式会社東レリサーチセンター ・株式会社トクヤマ ・TOPPANホールディングス株式会社 ・長瀬産業株式会社 ・日油株式会社 ・日揮ホールディングス株式会社 ・日産化学株式会社 ・日本化薬株式会社 ・日本軽金属株式会社 ・株式会社日本触媒 ・日本ゼオン株式会社 ・日本曹達株式会社 | <ul style="list-style-type: none"> ・富士フイルム株式会社 ・富士フイルムビジネスイノベーション株式会社 ・株式会社ブリヂストン ・古河電気工業株式会社 ・保土谷化学工業株式会社 ・丸善石油化学株式会社 ・三井化学株式会社 ・三菱ケミカル株式会社 ・株式会社三菱ケミカルリサーチ ・三菱瓦斯化学株式会社 ・株式会社モルシス ・ユニバーサル マテリアルズ ・インクキューター株式会社 ・UBE株式会社 ・株式会社リコー ・株式会社レゾナック・ホールディングス |
|---|---|---|---|

公益社団法人新化学技術推進協会 特別会員 (2025年4月1日現在)

- | | | | |
|---|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・大分県産業科学技術センター ・地方独立行政法人大阪産業技術研究所 ・国立研究開発法人科学技術振興機構 ・一般財団法人化学研究評価機構 ・公益社団法人化学工学学会 ・一般社団法人化学情報協会 ・独立行政法人環境再生保全機構 ・関西化学工業協会 ・一般社団法人近畿化学協会 | <ul style="list-style-type: none"> ・合成樹脂工業協会 ・公益社団法人高分子学会 ・公益社団法人高分子学会高分子同友会 ・公益財団法人相模中央化学研究所 ・国立研究開発法人産業技術総合研究所 ・一般社団法人触媒学会 ・国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 ・独立行政法人製品評価技術基盤機構 ・石油化学工業協会 | <ul style="list-style-type: none"> ・公益社団法人石油学会 ・公益社団法人地球環境産業技術研究機構 ・公益社団法人電気化学会 ・公益社団法人日本化学会 ・一般社団法人日本化学工業協会 ・日本吸着学会 ・公益社団法人日本セラミックス協会 ・一般社団法人日本塗料工業会 ・日本バイオマテリアル学会 | <ul style="list-style-type: none"> ・一般社団法人日本分析機器工業会 ・一般社団法人日本膜学会 ・一般財団法人バイオインダストリー協会 ・国立研究開発法人物質・材料研究機構 ・一般社団法人プラスチック循環利用協会 ・公益社団法人有機合成化学協会 ・国立研究開発法人理化学研究所 |
|---|--|--|--|

後援団体(予定)

- | | | | |
|---|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・経済産業省 ・文部科学省 ・環境省 ・国立研究開発法人科学技術振興機構 ・公益社団法人化学工学学会 ・株式会社化学工業日報社 ・関西化学工業協会 | <ul style="list-style-type: none"> ・一般社団法人近畿化学協会 ・公益社団法人高分子学会 ・国立研究開発法人産業技術総合研究所 ・一般社団法人触媒学会 ・国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 ・公益社団法人石油学会 ・公益社団法人電気化学会 | <ul style="list-style-type: none"> ・株式会社日刊工業新聞社 ・公益社団法人日本化学会 ・一般社団法人日本化学工業協会 ・日本学術会議 ・株式会社日本経済新聞社 ・一般社団法人日本経済団体連合会 ・日本商工会議所 | <ul style="list-style-type: none"> ・公益社団法人日本セラミックス協会 ・一般財団法人バイオインダストリー協会 ・公益社団法人有機合成化学協会 ・国立研究開発法人理化学研究所 |
|---|---|--|--|